

おおま

No. 96
岬の光
平成30年2月1日発行
議会だより



電源開発(株) 渡部社長新年の挨拶に来町

(詳細は最終ページに)

主な内容 12月定例議会

○流会について

P 2

○第2回臨時会

P 3

○台湾訪問報告

P 4～5

○報告・編集後記

P 6

12月定例会の流会について

町民の皆様には日頃より行政・議会発展のため、ご理解ご協力いただき厚く感謝申し上げます。

12月定例会は、12月11日に開会し、12日各常任委員会、13日一般質問・議案審議、14日議案審議・閉会の予定でありましたが、本会議が流会となったため、採決が行われず議案等が廃案となりました。

これは定例会開会日に1名の議員が体調不良のため欠席し、医療機関受診の結果インフルエンザに罹患したことが判明したことに伴い、他の議員に感染が広がり議会開会に必要な議員数が過半数に達しないこととなったためによります。

議員の回復具合をみて予算執行に支障をきたさないよう、12月22日臨時会で対

応させていただきます。

今回町では、町長並びに議会議員、教育長、役場関係課長14名をもって、12月7日から議会開会日前日の10日までの間、姉妹町の締結を行っております中華民国台湾省虎尾鎮を訪問してまいりました。この訪問中に体調不良を訴え現地の医療機関を受診した議員があり、この方が帰国後も体調が改善されないことから、医療機関を受診したところインフルエンザへの罹患が判明いたしました。

同行した他の方々も、この時すでに体調の変化を感じていたことから、医療機関を受診したところ、台湾を訪問した議員8名のうち6名までがインフルエンザ罹患の診断がなされ、1週間程度の外出禁止で、議会定

例会への出席が困難となり、結果として12月定例会が流会となったものです。

これらは新聞テレビ等においても報道され、町民の皆様には大変なご心配とご迷惑をおかけしました。

今回の事態は一議員の健康問題のみならず議員全員の体調管理、議会全体の問題であり、日頃から健康であるということがいかに大切であるかを痛感させられたもので、心より深く反省しお詫びいたします。

町民の皆様から付託を受けた議員として、健康管理を含め、より一層鋭意努力してまいりますので、今後とも議会へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

大間町議会議長

石戸 秀雄

報告

建設中の新庁舎 現状報告



平成30年1月現在、作業の進捗状況は予定計画よりだいぶ遅れている。

原因として挙げられるのは悪天候と、大間特有の強風。今後、外壁工事が終われば遅れは取り戻せるとの事。期待したい。

第2回 臨時会

12月22日開会。

議案11件、報告2件、承認1件、議員発議1件、陳情1件を
原案通り、可決、承認、採択し閉会しました。

平成29年度 補正予算

一般会計

歳入歳出それぞれ2
383万円を減額し、
予算の総額を45億94
38万円とした。

歳入の主なもの

○電源立地地域対策交
付金650万円。
○防災行政用無線整備
負担金1億5000
万円。
○町債では過疎対策事
業債1億7620万
円を減額。

歳出の主なもの

○繁殖センター4tト
ラック購入費209
0万円の減額（30年
度へ）。
○下水道事業特別会計
繰出金613万円。
○予備費では財源調整
し751万円の減額。

国民健康保険 特別会計

歳入歳出それぞれ5
522万円を追加し、
予算総額11億3779
万円とした。

介護保険特別会計

歳入歳出それぞれ1
955万円を追加し、
予算総額6億7212
万円とした。

下水道事業 特別会計

歳入歳出それぞれ6
13万円を追加し、予
算総額2億5468万
円とした。

水道事業会計

支出の営業費用で37
万円、特別損失で3千
円を追加し、収益的支
出の総額を1億608
0万円とした。

指定管理者の指定



○公の施設の名称

大間町老人福祉施設
「くろまつ」

○指定管理者として

指定する団体

大間町大字大間

字寺道16番地

社会福祉法人

大間町

社会福祉協議会

会長 浅見恒吉

○指定の期間

平成30年4月1日か
ら平成35年3月31
日まで。

議員発議

提出者 竹内弘
賛成者 全議員

○道路整備に必要な予
算の拡充を図ること。
○道路財特法の規定に
基づく補助率等の嵩
上げ措置について、
平成30年度以降も継
続すること。

以上の意見書を国、
関係各位に提出。

条例の一部改正

○議員の期末手当につ
いて支給割合を改定
するもの。

○特別職職員 of 期末手
当の支給割合を改定
するもの。

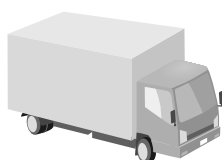
○県人事委員会の勧告
を踏まえ、一般職職
員の給料月額及び勤
勉手当の額を改定す
るもの。

専決処分の報告

○町所有の公用車が上
下水道業務作業終了
後、前方にあったコ
ンクリートブロック
の基礎部分に衝突破
損したものの責任割合
は当町10割、14万400
円。

○町所有の4tトラック
（繁殖センター）が
公務帰路途中、むつ
市内において前方車
輻の左折に気付くのが
遅れ追突し相手側
が受傷したものの責任
割合は当町10割、16
万145円。

※2名の方とは和解し
今後本件に関し、双
方共一切異議を申し
立てないとしている。



(町)へ訪問

H29.12.7～10



新幹線雲林駅での歓迎風景

2016年11月、台湾雲林県虎尾鎮(町)鎮長 林 文彬氏より1975年10月10日、貴町と虎尾鎮は台湾と日本地方自治体同士として初めて姉妹町関係

締結、これは台日地方交流史の一ページに残る誇りです。

姉妹町締結して以来、双方は産業、教育、文化、医療などについて、幾つかの交流成果

を収めたが、近年双方の交流が途絶え非常に残念に思っております。

今年、350万人以上の訪日台湾人観光客が見込まれ、双方人的往来により台日の経済、産業、文化などの交流の拡大が期待されると同時に、台日地方自治体の交流も盛んになっております。

虎尾鎮は、貴町と過去の姉妹交流実績に基づき、是非交流を再開出来ます事

を切に願っておりますので、貴下及び、貴役場、議会、関係組織の方々に本鎮(町)を是非訪問して戴きたいと、金沢満春町長宛に書簡が届いた。

我が町と虎尾鎮(町)との交流記録

● 1980年(昭和54年)3月の町議会定例会に於いて友好都市関係締結の議案が可決。同年10月10日友好町締結証書に調印。

● 1982年(昭和56年)6月虎尾鎮長他8名来町

● 1985年(昭和59年)大間町助役が虎尾鎮を表敬訪問

● 1988年(昭和63年)大間町長他2名が虎尾鎮庁舎落成式出席のため訪問

● 1989年(平成元年)8月虎尾鎮長他5名が来町



虎尾鎮公所(役場)前

● 同年から4年間、毎年中学2年生6名が海外研修事業で虎尾鎮を訪問

● 1990年(平成2年)大間町議会議員一行が虎尾鎮を訪問

● 1991年(平成3年)9月虎尾鎮長他24名が来町

● 1992年(平成4年)3月虎尾鎮長他18名来町

● 1992年(平成4年)11月大間町町制施行50周年記念式典出席のため虎尾鎮長他2名来町

● 2005年(平成17年)3月虎尾鎮長他18名来町

報告

台湾・虎尾鎮



台湾媽祖總本山・北港朝天宮前

町長は2016年12月雲林県虎尾鎮 鎮長林文彬氏に対し姉妹都市交流の再開拡大の要望等に返事が遅れたことのお詫びと、貴鎮と本町の交流は1972年～1983年にかけて大間病院の慢性的な医師不足に、台湾出身の先生方が地域医療を担って頂いたことが始

まりであり、特に虎尾鎮出身の洪毓崑先生は6年6ヶ月の長きに亘り、患者さん達に献身的に寄り添って頂いたことから、虎尾鎮との交流が始まった。

自分自身は交流の推進を願っており、議長に詳細を伝え、前向きに検討する事と致しましたとの返書を

送った。

議会との協議を重ね2017年10月10日に開催された全員協議会で、虎尾鎮への訪問を決定した。

台湾訪問の目的

● 虎尾鎮公所(役場)を訪問し姉妹都市の再開と拡大の確認

● 東北・北海道地区では大間だけに祀られている航海・漁業の女神天妃(媽祖)様。台湾媽祖の総本山と言われる「北港朝天宮」への参拝

● 台北で、町長みずから大間町をPRする誘客イベント「日本東北遊楽日2017 だいすき♡とうほく」のイベント会場への参加である

2017年12月7日(木)朝7時30分役場前出発、台湾・台北のホテルに到着したのが夜の10時(日本時間では11時)

台北は思っていたより寒い。ホテル、移動車両には暖房設備がないとの事、困った。

12月8日(金)朝7時ホテルロビーに集合、気温13℃大間での説明では6月ごろの気候と言われたが、コートが欲しいぐらいだ。「虎尾鎮」へは新幹線の利用とバス。

新幹線の雲林駅では歓迎の横断幕と、幼児たちが花束を持って出迎えてくれた。

虎尾鎮の「オモテナシ」に感激。

虎尾鎮公所(役場)にも大きな横断幕が掲げられ、職員たちが笑顔と大きな拍手で出迎えてくれた。姉妹都市の再交流に期待する気持ち表れていて気持ちが良い。

11時から午後3時まで視察・昼食・視察とハードスケジュールをクリヤー。4時から台湾媽祖(天妃様)の総本

山「北港朝天宮」へ参拝。宮内は総石畳。その石畳を触ってみると角がなくツルツルで、聞いた話では参拝者の靴で磨かれるという。

1日何人の参拝者が訪れるというのだろうか。

だが、外は風が冷たく立ってられない程寒い、堪らずセブンイレブンで熱いコーヒーを買って飲む。

午後6時から虎尾鎮主催の懇親会に出席。ホテル到着は10時

最終日も気温13℃それに雨、体が震えるほど寒い。大間のブー

ス・大間マグロの寿司コーナーは大人気で一安心。残念だったのは外のステージが雨と出番が早かったため、台湾のお客が少なかつた。町長みずからPRに力を入れたのに。

今年の秋には虎尾鎮から当町を訪問すると言う、当町の「オモテナシ」は？ (記)加藤

報告

平成30年1月12日午前9時、電源開発(株)の渡部社長が、新年の挨拶のため、大間町を表敬訪問されました。

社長は挨拶の中で住民が今一番関心を寄せている本格工事の再開について触れられ、安全規制委員会に申請してから時間がたっているが、他の原子力発電所の再稼働等の審査もあり、大間の審査が延び延びになっている。年内の工事の再開が徐々に厳しくなっているが、今後も審査に誠実に対応しながら、審査の促進を関係方面に働きかけている。

や、飲食、サービス関係については、社員の研修や大間事務所を使つての打ち合わせ、会議等を企画しながら対応していきたい。

更に、昨年本店で開催した下北物産展が好評だったので今年も開催したいと思っている。

昨日、大間に入つた時、新しい庁舎の建設が進んでいるのを見て、徐々にではあるが我々の協力が形になっていることはありがたい。

引き続き会社としてどのような内容で協力できるのか、現地本部を通じて相談させていただきたい。

今後とも、現地とは共存共栄の気持ちで進めておりますので、引き続き住民の皆様にご理解とご支援をお願いしたいと思っております。とのお話がありました。

(記)加藤

報告

平成30年1月24日、むつ市グリーンホテルに於いて、平成29年度下北郡町村議会議員及びむつ市議会議員と事務局職員合同研修会が開催された。

本研修は、下北郡内の市町村議員及び事務局職員が一同に会し、相互の理解と連携を強め、地域の議会活動の向上を図ることを目的として、毎年開催されている。

今年度は、電源開発(株)大間現地本部大間原子力建設所の萩原修所長を講師に迎えて、「日本のエネルギー・電力事情」と題した講演があった。



講演では

①エネルギー需要や温暖化対策の動向

②再生可能エネルギー

大量導入や電力小売り全面自由化が経済に与える影響

③原子力発電の現状などエネルギー・電力全般を巡る動向について

の説明があった。

又、エネルギー資源に恵まれず、そのほとんどを海外からの輸入に依存し、エネルギー自給率がわずか7%程度の日本に於いては、S+3E(S:安全性+3E:エネルギー安定供給、経済効率性の向上、環境への適合)の観点からバランスのとれたエネルギーミックスを実現することが求められているなどの説明があり、参加者一同有意義な研修会になった。

編集後記

明けましておめでとうございます。

大寒が過ぎ、暦の上では一年で最も寒い時期という事になりますが、体調などを崩してはいませんか。

さて、今年のマグロ初競りでも最高値を取り、大間町ブランドの名を高めた事と思います。他の水産物でも付加価値を更に増して、漁業の町「おおま」の名が高まっていけばと思っています。

皆様方におかれましても、寒さに負けず、ご自愛ください。

(記)竹内勝雄

議会広報編集委員

委員長

加藤 正 喜

副委員長

佐々木 信 彦

委員

竹内 勝 雄

千代谷 誠 弘

竹内 昭 一

宮野 昭 一